

主こそ真の支配者

ダニエル書4章

こうして七つの時が過ぎて、ついにあなたは、いと高き者が人間の国を治めて、自分の意のままに、これを人に与えられることを知るに至るでしょう。(25)

ネブカデネザル王は再び夢を見ました。それによつて彼の心は恐れに囚われ、知者たちにその解き明かしを求めましたが、答えることのできる人はいませんでした。

そこで再びダニエルが呼び出されます。王から夢の内容を聞いたダニエルは顔を曇らせません。それはネブカデネザル王の高慢に対する神の審きを告げる夢だったからです。王は正常な精神を失い、人間の世界から離れ、牛のようになって野をさまようようになることと宣告されました。この世の王として君臨するネブカデネザルが、「いと高き者が人間の国を治めて、自分の意のままに、これを人に与えられることを知るに至る」ためでした。主こそ真の支配者であることを彼は大きな痛みをもつて知らされるのです。主がこのようにネブカデネザルを裁かれたのは、彼に悔い改めを迫るためでした。高慢が砕かれ、主こそ真の王であり、自らはその前にひざまずくべき人間に過ぎないことを知る必要があつたのです。神の審きの後、正常な精神を回復したネブカデネザルは、主をほめたたえて告白しました。「そのみわざは、ことごとく真実で、その道は正しく、高ぶり歩む者を低くされる」(37)と。

わたしたちの人生においても、主はあえて痛みをお与えになることがあります。わたしたちを苦しめるためでなく、悔い改めて主の御前にひざまずくことを願つておられるのです。